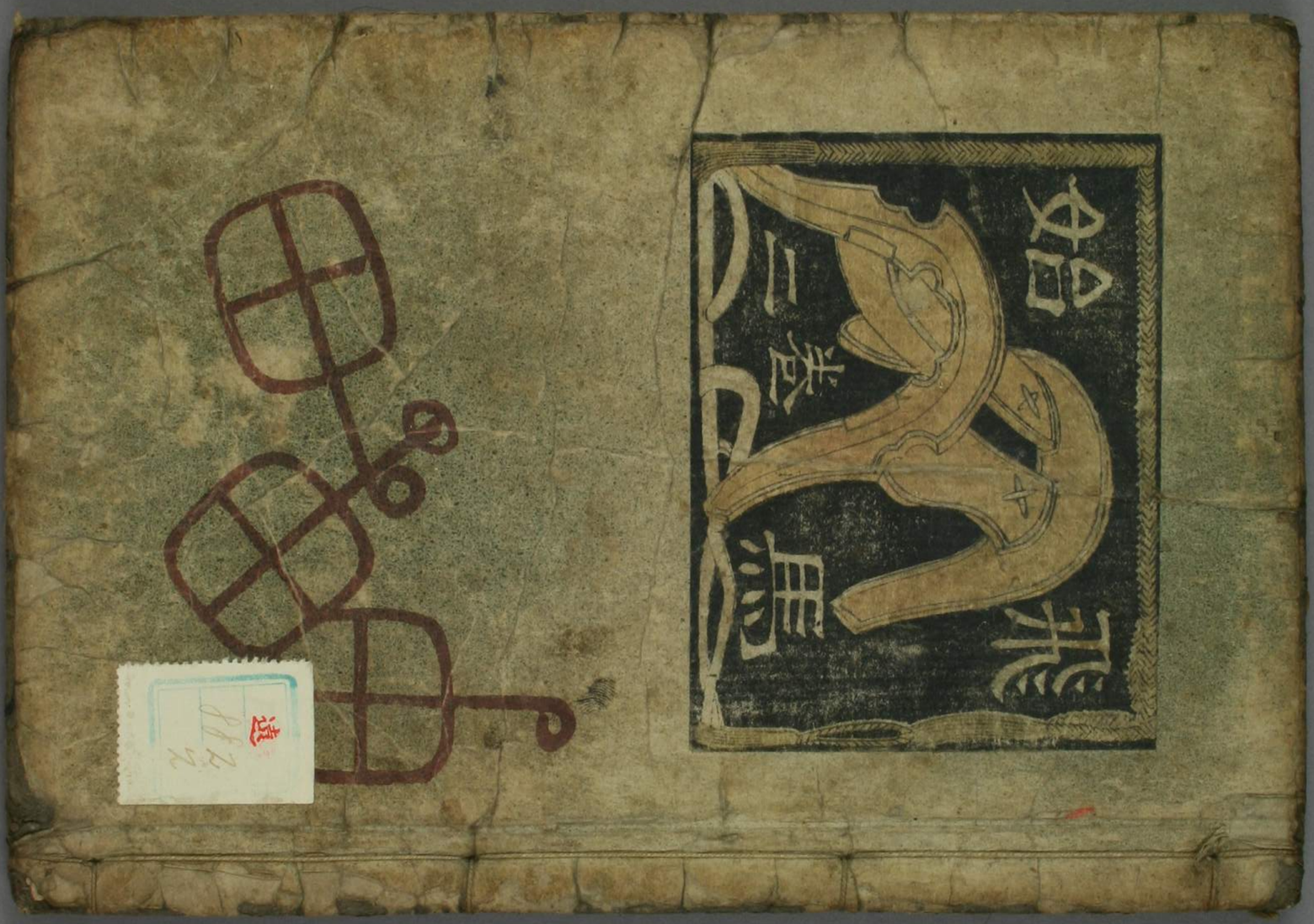


遠門
號 882
卷 2

旭文庫

明治三十六年十月十日購求

繪本傾城飛馬始貳之巻

たくの巻

さて一人あるあて一伺の更ごゆ却れ一人とさぐるさよ志ゆさ金出て宮つて
ゆのの通りの西清どぶ呂ゆても女ゆ縁の淫ん宮れ性ゆ何と
せぶ伺ゆ志と存でこゆそふトゆゆゆけてゆゆしふべえて寄ゆ一イエ〳〵笑ゆ
しゆんさゆト照さ照さ寄ゆ女ゆ〳〵ど付て出ゆ猪左門て〳〵柳照さ郎と引だゆて出ゆ
一マア〳〵よふんさとゆいゆ一イエ〳〵よふハんせぬ廣さんゆ女ゆ〳〵笑ゆ
て下さんせ嬉ゆ平蔵と云ゆて寄ゆ其ゆ乃ゆふアゆまゆさんとかゆんへ一ぞゆてみて
伺ゆ中〳〵常とゆひて妻西さん女ゆ実牛〳〵ぶて〳〵ゆさせくゆさゆタメくく
ふめゆと一まゆ抑さん猿ゆ〳〵て下さんせゆさゆ廣ゆよゆふゆ一見く伺ゆ
もいゆさんゆちふゆ見へゆちゆいぞ一いゆ志ゆんゆゆ笑へゆのふいものがゆゆて
常ゆゆの志ゆん〳〵ゆ一ユ答ゆちゆんゆゆゆ腹ゆの立ト照さゆる

題さとこりやたまらぬと逃るを柳「コレ〳〵汚ちゃんせいな」「イヤ〳〵ゆめぬく」袖の後へ
おさへるとこちら〳〵ぬけ〳〵柳「コレ〳〵」
ほんまに〳〵どんもとれもあるまいじゃやふい姉女郎とふと付さきこりやもふ色
すでふあさのやあアトまあ「あこの」「袖の」
青柳屋の座敷と大それるまんまこ
西さんよ根つこ位のそんふるがあつぢ「何のいな大こと写遠ひでんせまこ
きまの毒ふもけじゃこいな「惚人の多い題さんなりそふふとこ写くどし
どこゆう添ぬ世場のきだ「袖の」「袖の」
おゆ人のゆこ売こ〳〵おこ結よまこ紋〳〵もそれよおあのけらひ行まぬ
つた逃ち〳〵てトさんと弟人き実の姉さんのゆふトまあ柳ワシトむく甚弟人の座
御を葉こるかちふれ共アト題さんゆここ〳〵ふこ「そそんふ〳〵アノ
とこ〳〵「アイトこう」「がとれ」「題」「アトおといち〳〵んれど皆あつこ〳〵ひりみこ

東ドゆ「青」「ぬゆこ〳〵袖んせこんふみとあぐ〳〵袖んとあ弟人がこうん」「そそでんと
皆題さんの西性ふこ〳〵ドゆこいな「そふトゆこいな」「こ写縁て今のゆこふゆ紙
さんせぬこゆこ二人とも引付て写くせこ如せふやゆ〳〵ぬすア〳〵トトトト

[illegible]流一口のんろくれ作人にて出けみろ
あくとう松浦三郎義治出て彌右ゑもんとあざめ「お客人待ち〳〵」彌「客人もろくご二文
めを分よとるとあせ留ろ子ぜへさコリやうめも盗人の腰押のどやるくろうでもあ人
へきくろぬぶつて拾うぞ「イヤ対そろ」[illegible]「待そ」拵者「[illegible]
ヤのーやちくが達てあ来あれとわらび風うも殺とゆん其えるも西腰とさい
てゐれば拵者迎も鹿ゑもヤとぬろ笠あておくめヤのーどやろ〳〵お待ち
彌「スリヤ接拶とちろめろ」「ふせうふぐーり皆時の間とれちどりさあーどやもぐ
よ彌さがよのハサ「中略」「アイ〳〵イヤヤそろ〳〵色里の更とヤみろこのそ〳〵も世
ゆうかいさうひが出ゑ弁ちまんちまづめろがこと「らが役「そでんとちくがお待
ち方のいんろうも又捨別ろーらがカあも及ぶめ更「待ち方のお腹ろよ「待ち方
の御接拶モウろ笠ーて「上ふされいヤ「彌「ちやうむつ「コレサ腹「俳た
ぶくがろんま柳腹と吳金て弁のむよてんぐをさろーやるよて世やふ吳親

が親る悪い〳〵ぞんどろいろ〳〵絡つて赤ちろの毒れ〳〵「腹白お腹がろあが湯ぶ
ろろふんと絡つて海ひあーちあり「と絡つてトさんせいち「サア〳〵ちあり「と縄を
とあされいヤト「彌「[illegible]「[illegible]「[illegible]

糸つさ揚巻の住義「武さる者が刺と切れてる者がふいやう二丈めうせふて」「イヤ
結用がなるやうこんしやれ」ト「なるほど」「つんれびおあも浪人そうふうあ用
とうと」「結ぶがつとうとうとんれ」ト「ひりうりうりうぶ」「ヤア お頼み
疵が」「いーう仲を保ぬ他家の付を頼と眼とあるを見てるふいがあせ武士の刺へ
疵と付られと」「何と」「何角をあつび喧嘩とうけ接拔をあとあるられ此
孤子猫と名たがうけんへあつう付さる性と其元であさ」ト「スリヤ今のてびふ
ト「なしあ物ぶんれむるでうう打付さ孤子猫それがうう実でもえ労いさあへ
此方をなせぬ知りさう是を写送ひとやもの」「たうられうあう通う拔者浪人
者でれば主人とんえて仕官のうまえられるふふ刺でえれがふふ此屋よりがる
男女ともうう合名たが武士のえうあるあ別さうれ」「ヤア」ト「イヤす
いうやうよいろ出れても今のうを写送ひちんぢう怪家のそう金」「そえの刺とうち

別屋城じやとやさび扱をそあとおあやうる名とう」「ヤア」「ヤ拔里といひ場所へ行
れどそと八浪人の一徳見ん悟ぐとべ此方ふう稼ひけ但しそうふう稼ひけ貴人
何のとでうト「肖像右方大きう」「な見ん」ぶ調法ふ万ん せてさ只今の宜家お腹
ふ平ふ所右へやふび孤子猫めがうるふふるあふい孤子猫でるうまきうう痛いるさ
さあう性紙入ふ血へめがあてがうあるんへこれへ見血へあでるヤ」「見とお付られ
へトおてあてとづ八分あと」「イヤ兵今討原此半度ん づひを垂れふられてヤア
沖用をふられ何そうふ人えとヤせびおあ逢ふ」「孤つさう」「孤の毒ふぐう用うと
さうふ者れ」「アうれへふも」「武さる者がうる名あへぬ所を討果ばうふいさい
何お貴人喧嘩のえハア西人をうぞうと討放てまるうれを聞をおれいヤア
そうちうう斤付てあるうふ者れ」ト「聞」「必程へ此上ハ見飛ふ及べぬおれ
見者ふ孤ふ孤貴へさそふ」「イヤうふうへぬ賠貴へ」「それへ」「何が

はえてゐる一方うしろ行付うしろ足をいふ近屋よりうげあふ行付てゐるところ
毒れぬう一方勝負〳〵コレ〳〵先沖縄まふ実へ拵布でゐる傷而がうるふ
多行の〳〵先祖のうもり疵ゐ笠ふ〳〵ぬとい〳〵だいやもの〳〵対馬を祖の要でも〳〵
ぬモウ〳〵行ふも云つ毒んふよくゐるうもの〳〵それでハ扨〳〵えらいぞ〳〵えても
えいでもゐる笠せぬとくハ逆よくハ下げ来て弓たが弟の上トナカラの方をとてこちがゐる笠
をれべどこもかゐともゐ笠がゐうそあふ和じやが〳〵ゐ笠いてえたがよく〳〵ふふ
〳〵堪忍の二字を武士てゐるものたゝ〳〵ふこでゐる〳〵拙者が肩入〳〵疵を付られる
笠いてえうゝハ其元のそ疵もゐ笠ゐゐ〳〵ゐ笠殺さでゐると殺ふ〳〵世上
ともよ云ゐうゐ〳〵ぬう〳〵ハテ世方の殺よ疵の付さも〳〵弓たが肩入のそれこのも
疵をよハ〳〵をふいゐゐと拙者が接拶〳〵これで後ゐのお名も実〳〵拙者
が命も金ゐて〳〵委更よ納ゐ所浪人のそうゐ〳〵ゐとゐも落付ゐうゐ

ハテゐふ〳〵さあじや金出〳〵て女郎ゆちふ〳〵まやごを上よまもゐたい
ぼうで深ゐるといふい金ゐうといへい〳〵ゐ疵よ対馬〳〵せふゐ〳〵分の〳〵隠くのお世話
ふ和ゐる〳〵ハテ拙者が接拶〳〵ゐ疵ゐ中毒ゐ弓ゐ実へゐんせんゐ〳〵そふ
せう〳〵サアさ実ゐ〳〵ハテアアゆゐ毒んせんゐ〳〵分角ともゐふゆゐゐけさものと
ト殺ゐるとうほゐあゐせトリや注ゐ〳〵徒て呑毒そふゐ〳〵サアゐるゐ〳〵サア
ゐんせんゐ　トゐふゐ公殺ゐふ茶屋治中居はゐとゐ大せんゐふ〳〵ゐゐる喜ゐとうれ接せゐふ
りふゐく〳〵ゐへえ入十ゐをつ隠ゐ郎ゐ抑こゐんのゐゐ居るゐふこのゐゐゐ
〳〵ほんゐとゐふゐゐゐゐと毒〳〵ゐが為ゐよけがゐふ不疑ゐ御ゐゐゐのゐゐげ
〳〵後ゐの御注ゐ後ゐゐとお頼ゐ疵ゐとゐて御添切行とお乳とヤすゐてゐよう
ゐふゐゐ〳〵これ〳〵お礼ゐゐゐくゐゐゐ入せん祖ゐゐ代ゐ編御大ゐのそえがお爺の出ゐ
のと笑ゐゐなゐ　秋ゐふ歩波ゐゐを滅と仏ゐゐゐゐもあゐゐんゐゐとゐ人と
ゐ者ゐゐ〳〵行時ゐゐゐふゐふ紙ゐ気がゐるゐんゐあゐゐふんハテ其時ゐこふゐゐの

照太郎　小川吉太郎

十右衛門　浅尾額十郎

青柳　澤村国太郎

お世話なるやいともやさしぬおを上らさいく一生の御恩あごふを思ひ世
ぬ日はをいやるお方じやと思ふさぐろふといふ名ふ御深切が忘られて世やうふうまつ
を吏をもんせぬ一ちまをんあつかあをと知て居ろ一ア一ちまをふぐくまを柳
の色香を選ひ空をまつられぬ里の西今雪もふれば糸りやうこと一文りや世間うう
いるのある一所浪人の重なじやをいす一アこふ一ぐがト十ち果つ者って十ぐ一面目
ぐ弁ももん一ハテもト一ちい入十ち果つ十ち柳が多をれ一ちを奥へ来やれ一イエ一ちをやを一今二人
が中をとん吏さうへト細をとあれをとを云ぬ盃ヨい陰ぎの附合一それでもぐ雪一う
かうを拵布のおろひト十ち柳の方へお若いの後別御を切やせふト一ぐ一ちまを柳をつまと
ちを一ぐ一ぐ一ぐ

「ハイ〳〵」ト坐敷あらためんでも坐ぐせ外ト「ハイ〳〵」ト出て行く「ヤアこれ〳〵」ト
「ちやあいト」ト「ヤアサ是幾入姿での」ト「ヤアこれ〳〵」ト
を附久「ヤアを付でもあが中く面白い精迚」ト行と住家へ入と一軒淋敷ぬ「それハ
あぐらふるうち「けいせいこそふれこそろうコリヤ精よ宗へこいく」ト「さる猪ちやうたべ
ある」と「さやうもあるべお緒義あり」ト「ナアく更へ」ト「ナアく更へ」ト「さる迚も更へ」ト
ト「よびお入あるをまつせよ」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
よ毛利殿を命ぐ「アイ」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
清つめでムり彼貨物の天の服装とトいうもとくしどめで照ち郎ぐ呼ぶ
お見ふるうまらが「連ていて遣てよ」ト「ナアこれいお世話でムり」ト「ナア
ムんせるち」ト「玄関迚ち放てトさうせ」ト「ハイ〳〵」ト

く「時平」ト「桐壺」ト「女房」ト「女子」ト「女房」ト「女子」ト「女房」ト「女子」ト「女房」ト「女子」ト「女房」ト「女子」ト
女房ひと知てあるもよいうげんがよいうん「そんあゝ」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
さあ「日外のあとち」「それのあそ」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
有さあト「ハイ〳〵」ト「文時の迎廊で」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
「女子」ト「これいのハ一変の遊興が」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
あ中と思ひ出種意と上下の傍ちあいと中〳〵又上と「ナアこれ自ごの」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
それでそあるこの紙と引て「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
の下郎めそ出でお呉ち「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
此糸の強ち先く「雲絵の錦」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
こちらうのぼう新と翻とをきあつふとふ「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト
ませふぐあ「そあドやこのもの」ト「時平」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト「ハイ〳〵」ト

[illegible]

お源ーヤそれおぢやるぞ　ト暗中を討ぢやるよ里振れて

るぞ〳〵ト今里上去　そなたと合して其下より里とおてそれよりおとがとくてあが

コリヤどあるふるぞやハテお定りおるがでらう外るどあてもハテヤあつる

おやよりてまと今てまて若人であるの御の主中より奏てとくとハ三里のつぢどや

よりて四里ぢやあるハ　ほんよりもあどやこらの　きまりつぢおあ　よ成ちら西側ナ

ト今里対後ろとちつト付　此所ちんぢまり付たせれ　如君ちをよ御　陸よ成るこの所日ハ元朝の義武御鈴へ

おぢるあて御ぢうぢ　ねどあるる　そち　逢ちを先へ帰つあ自ちを時年とつまを

ハそれ〳〵ト郎めハ若因ぢの御　借せふやあり外めつ　お帰りよ成ちがよふ

外るハいやのふそれでち　ト時年ぢ　ちを　ちくちちちうちうく見ときりてナ事

くおあ成へトるる〳〵ちて　ちる〳〵ちて　ちるる　ちるる　ちるる　ちるる　ちるる

ちるる　ちるる　ちるる　ちるる　

明ゆやえ西でゝゝうせふト十たゝ引「コリヤ待「サア」かゝまゝどふでゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝも金ゝゝ変ゝ十「悪ゝと見て悪ゝとゝゝぬい鬼畜赤石「待ゝべゝゝえへ「それゞゝ愛
屋の金ゞ「代官所へ引ゝゝゝ十「ゝゝれすやめゝ「代物と扨て帰らゝゝ「サアゝれゝ
「サア「サアゝゝ「返変いぶゝゝゝやト悪ゝゝゝ入ありゝゝ「せん程の返礼ソレト
ゝゝ「ー内ゝて等ゝゝゝゝ

貴殿のお礼よりハ猶迫つの老人続しい多分の金子ようこもふい系へ内
用達さろ出世の種ゝ仕こんふ薄い風体で金行へさ拵ふ迫て三百文借文さ魂
授よ寸一筆〳〵ある程〳〵金子借清の證文ふ〳〵杜者が借文よいと〳〵イヤお
ま人分でろ〳〵まうふ〳〵ふたが〳〵イヤ〳〵あふこ方ふい借ゝせぬ證文も行もらぬ顔
らのゑでろこ一筆〳〵拵ふいゝゆうとも ト硯紙を丸まゝ
てもろいゆ世ろ〳〵ゆ脇へちとちふこんゑの却名斗 ト巻物と出し
ぞよろ〳〵ふろ〳〵ゆる色が幸のむゆ迫で〳〵ゆる ト硯箱の内体ふいお大名
ゑよ〳〵ゑとゝぐゝふ迫ゑ硯ろ〳〵ゆ仕ゝとろさゆだろゝんゑ硯を即ゑ
とゆふ〳〵ふ迫ゑとゝふゝとゝゆゝとろさろ無ゝふ迫てこんゝる玉ゝふ果ゝふ
これゝゝ無おふうんときれいゝきぬゝふ〳〵イヤ〳〵ゆ〳〵ゝ〳〵ろゝふい〳〵〳〵ゆ夜が
ゑふ入ゝゑゝぐふお風〳〵ゆ杜者ゝ演辺へゝ系ゝ出新の系と〳〵それが形仕ゝのふゝ〳〵
ゆ〳〵ゝゝゝ

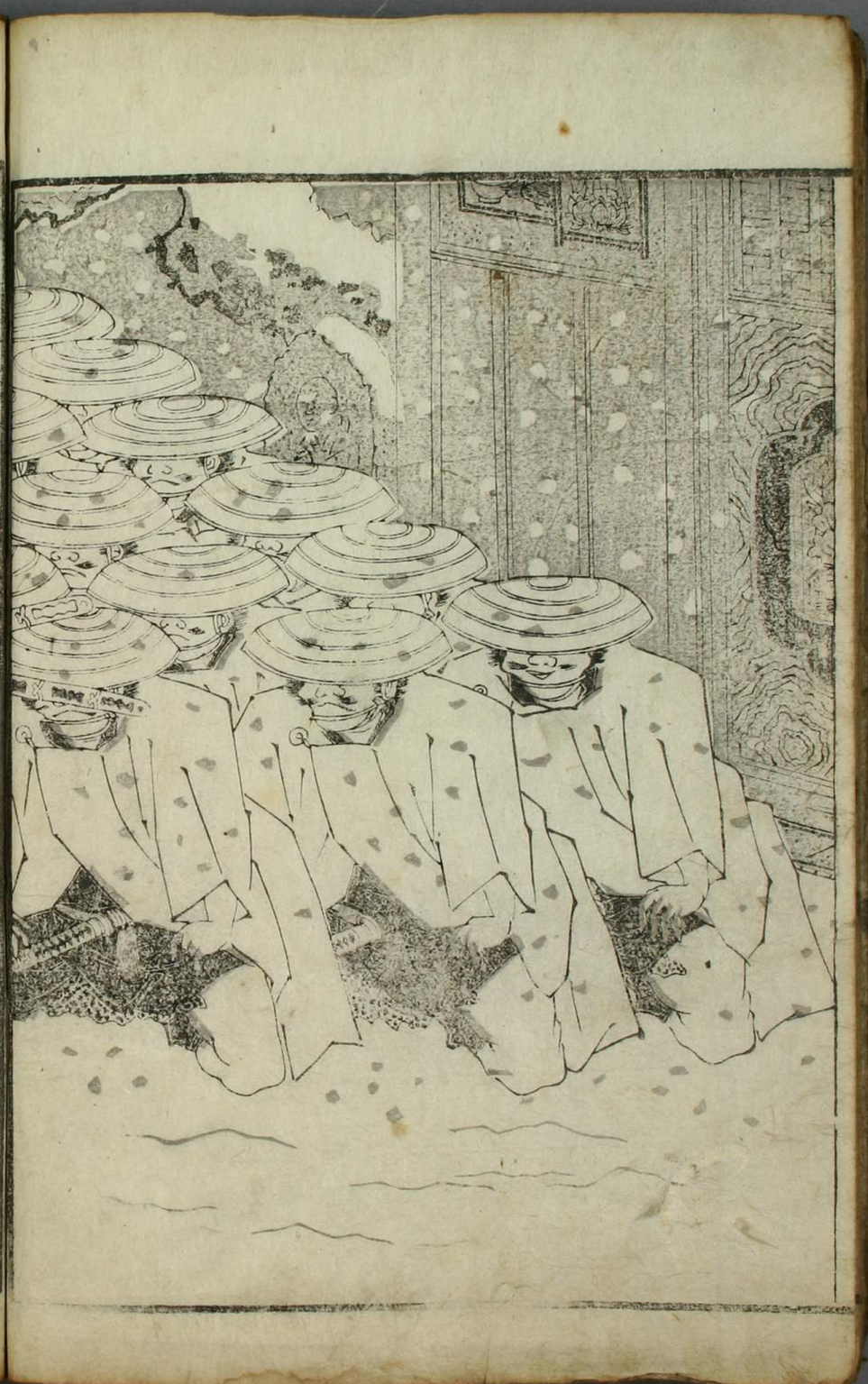
人一歩も
出へきらうせふアそちらこふ御浪人も「拙者いろ〳〵」ゞ変も「ハテ
つんきと切も当座の返礼御縁もゆゝしきゆゑ「サテそんなら殿方「せう〳〵お銭
拾がーませいアトあつぱ世一件はなしくつ夫入十ちらこ人ぶい「弟ゝ嫁ゝ「ヤレトもそん
ところく合方ゝ成ト西のおくようさるまいこうこふ「弟ゝ嫁ゝ「ヤレトもそん
上のおくようさるまいこうこふ「弟ゝ嫁ゝ「ヤレトもそん
十ちたろ
一ゝ塚ふ勝右衛門「大夫五郎他一ゝレ三百両軍用金も見で大ゝさ「毛利殿さ
郎もそちの味方ゝト連判を出せ「お出ゝふされさシテ九品採頭の示ふ「氣づ
うひろふそれも先達てコトさ「ゝ入殿「世連判ゝ義久ゝへト猪名谷
ゝ「ゝ
ゝ世ゝ「ゝ毛利の金宝ゝ人の殺夜盗ゝ義が行ゝ「ヤレ音ゝ家ゝ殺死時玉
殺ゝ殺も地中ふそもとゝへゝ御の殺ゝ軍師鶴塚「いろも名茶の那ゝ塚の
理とんゝて帯と築ゝ素ゝ工夫の縄張秘若殿「万ゝ丸をゝ「出ゝとゝ
「ゝ
ゝられゝ「さゝ
ゝト

世中世間
ゝ
ゝ
ゝ

の出口で將軍の海辺へ行き給ふとて、進んと早ふ、ハツト驚き平伏ぶつ
ぶつ、
「ヤ、ヤ、夫へ」ト青柳とられ中の分てやくへ入
ると、乳の附侍てきりとて、
「ヤリヤ」ト青柳
トきりとられ出きりとて、
「スリヤ」ト青柳
「ヱて扨も人の家系の」ト青柳
世のうきてふなのう、
「イヤ」ト
「イヤ」ト
「アイ」ト
「どうるりじやうこの」ト青柳
「ヤ」ト
ヨリヤヨ、二重鶴の古金傳られおちてゐることあつて鹿之助殿の弟じてゐる
「そんな」
もつきぬこいまア、
「トきやうとあつて入るてゐると
「ヨリヤヨ」トあとへ逃
「扨もひもよくぬ」
アノ扨姿世きりとといひ
「ヱ」
「扨の連判」ト
「巻と出しとうも
「世二きで伊角のまつ
ぐひとし、
ト世内
「行と」ト
「そんなとも」
いつぬ行でも喜西と
「ト
「甚連判と」ト
「甚義次」
「中今」
「ト
「出り」
「甚義次」
「三上清義」
「ト
「其方もコリヤ」ト
「ヤ」
「ヱ鎧へ帰りて行のまに配」
「扨者ら踊よう」
「ぬりふふ」
「ハツ」ト
「甚義次」

ぐつへ入てとうるの福原軍八若流しあふぐりて
ぐつと出向とうるぐ扨より清義聖者扇
「ハツ」
「貴方年ちぐよりも」
「ハレ若殿」ト
「殿」ト
「殿さん」ト
「ひつへ扨四」
「ふ物早よ」
「分」ト
「中ア」
「殿」
「ト
「中今」
「ト
「ハツ」
「ト
「ハツ」
「ト
「ハツ

岩倉王膳正
市川鰕十郎



旭文庫

一面の後夷幕にまゐる

繪本傾城飛馬始末之巻終